

平塚の石仏めぐり

17、田村編



田村天漠宮の単体道祖神

田村の石仏

田村は、平塚市の北東部に位置し、相模川に接しています。東西を走る県道伊勢原藤沢線はおおむね江戸時代の大山道で、大山と江の島を結ぶ参詣路として賑わいました。『新編相模國風土記稿』には「民戸百八十八」「大山八王子の二道係る、人馬の継立をなせり」とあります。

八坂神社は田村の鎮守で、社伝には延暦年間以前に創始されたと伝えられています。寺院は妙楽寺、常勝寺、貞性寺、常安寺の4ヶ所。妙楽寺は開山義堂周信、開基足利基氏で応永11年（1404）に足利満兼の祈願所となった古刹です。本尊は十一面観音で、合併した真土の東光寺から移された薬師如来や、旧田村十字路にあった十王堂に祀られていた十王像と地蔵が楼門に保管されています。

田村の石造物総数は82基で、そのうち妙楽寺の16基と八坂神社の18基で約半数を占めています。

種別では、道祖神が10基あり、7基が単体像です。しかも「奉造立道祿神」と刻む同じ舟型単体像が鹿見堂橋路傍、天漠宮、常安寺の3ヶ所にあり特筆されます。また大山道に係る立派な道標が田村十字路、八坂神社にあります。

見どころとしては、妙楽寺の荒母鬼神、廻国供養塔、十一面観音、狛犬、八坂神社の信州石屋が寄進した手水石、貞性寺の4基の題目塔などがあります。

石仏豆知識 13. 大山道と不動明王

不動明王は、治病・安産・災害の除去・怨敵降伏・財福を得るなど、広く種々の祈願をかなえてくれる仏とされています。お不動さんと親しみを込めて呼ばれ、個人の信仰ばかりでなく不動講がつくられ、個人や講中により石仏も造立されています。

顔は忿怒相で、右手に宝剣、左手に羂索を持ち、火焰光背を背負っています。宝剣ですべての煩惱をバッサリと斬り捨て、火焰で焼き尽くすとされ、羂索は煩惱をぐるぐる巻きに縛る綱にも、煩惱の波に溺れる人への救いの綱にもなると言われます。

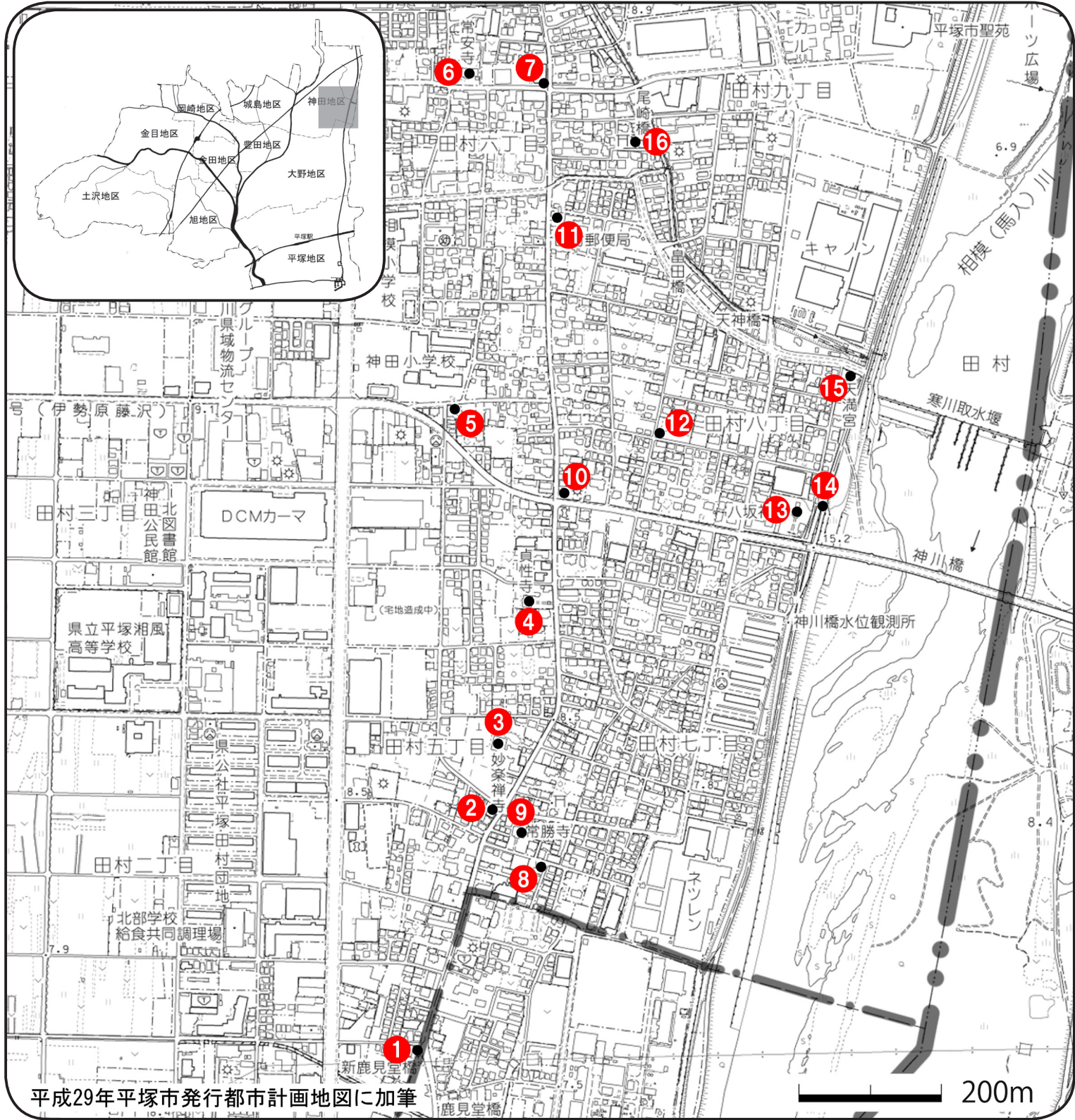
仏像では矜羯羅・制吒迦の二童子を脇侍とする三尊形式が一般的ですが、石仏の場合は不動明王一尊で造立されることが多いです。矜羯羅童子は温厚な性格で、制吒迦童子は誠実でたくましいとされています。二童子は人々を救済するために、不動明王の手足となって働きます。

不動明王は大山道標の尊像としてもよく見かけます。大山は神仏混淆の霊山で、山頂の石尊大権現と大山寺の不動明王が共に信仰され、関東における修験道の道場です。江戸時代になると庶民の間にも信仰が広がり、関東一円に大山講がつくられました。旧暦6月から7月にかけて参詣登山が行われてきました。関東各地から大山に通じる道は、大山道とよばれ、各地に大山道標が造立されました。大山道標には不動明王を尊像としたものが多く見られます。

平塚市内にも不動明王を尊像とする大山道標が5基あります。そのうち4基は道標の上に丸彫りの不動明王坐像が載っています。豊田本郷の清雲寺の不動明王坐像は像容がよく残っています。文化10年(1813)の造立で台石の正面には「不動明王 右糟谷 左大山」とあります。平塚五丁目路傍の不動明王坐像は、火焰光背が欠けています。寛政5年(1793)の造立で、台石正面には「大山」とあります。中原の日枝神社の大山道標（年代不詳）と、田村の八坂神社の大山道標（寛政5年1793）の不動明王坐像は残念ながら欠損しています。

田村の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	鹿見堂橋路傍	四之宮 7-6	記念碑・道標、道祖神
2	駒返橋際	田村 5-10-14	史跡碑、道祖神、庚申塔
3	妙楽寺	田村 5-13-2	記念碑、奉納塔、手水石、荒母鬼神、狛犬、観音、六地藏、地藏、廻国塔、一字一石塔
4	貞性寺	田村 5-21-26	題目塔多数、題目塔・万霊塔
5	神田小学校前	田村 6-3-14	地藏、地藏・道祖神
6	常安寺	田村 6-24-11	観音、地藏、道祖神
7	農協前路傍	田村 6-25-25	庚申塔
8	常勝寺墓地	田村 7-1-20 北	供養塔
9	常勝寺	田村 7-6-47	地藏、宝篋印塔、阿弥陀如来、水神・金神



平成29年平塚市発行都市計画地図に加筆

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
10	旧田村十字路	田村 8-1-1	道標、記念碑、史跡碑
11	天漠宮	田村 8-4-9	道祖神、猿、庚申塔
12	田村上町路傍	田村 8-14	馬頭観音
13	八坂神社	田村 8-21-30	記念碑、狛犬、手水石、道祖神、不動明王・道標、庚申塔、道標、石祠
14	田村横宿路傍	田村 8-22-3 南	動物供養塔
15	天神社	田村 8-22-17 北	地藏
16	白山神社	田村 9-3-6	奉納塔、道祖神、手水石

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（17. 田村編）

発行日：令和4年11月

編 集：石仏を調べる会

発 行：平塚市博物館

住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41

電 話：0463-33-5111

鹿見堂橋路傍の単体道祖神 (地図番号①)

田村の下町と四之宮の上郷で祀る道祖神です。田村には単体の道祖神が7基ありますが、そのうち3基は碑形、像容、銘文が全く同じです。

一つは下町で祀るこの道祖神、二つは上町の天獏宮、三つは常安寺の無縁塔群の中にあります。傷みの少ない常安寺の銘文に「奉造立道祿神 施主一山孤輪信男」「享保四己亥天十二月吉日」とあり、道祿神という神名は珍しくこの3基だけです。



単体道祖神(享保4年)

駒返橋際路傍の石仏 (地図番号②)

駒返橋は八王子往来中の石橋で長さ六尺二寸でした。

記念碑の「田村 駒返橋 こまかへ橋 跡」には妙楽寺の門前で人馬継の場だったという地名説と、家康が鷹狩に来た時、大雨の悪路に、田村の人たちの苦労をおもんばかって、この橋より駒を返されたと言う伝説があります。

道祖神 小屋内に下町で祀る新旧二基の道祖神があります。右の舟型で鳥帽子を被る単体像は安永7年(1778)造立で、左側は自然石に「道祖神」と刻まれた文字塔です。その前には五輪石(ゴロ石)が置かれています。



左 文字道祖神(年代不詳)
右 単体道祖神(安永7年)



庚申塔(天保13年)

妙楽寺の石仏(1) (地図番号③)

祥雲山と号し、足利基氏が開基で義堂周信が開山しました。

徳川家康の関東入国後には寺領10石の御朱印を受領しました。参道の先に中門があり石仏は境内の半僧坊周辺と本堂左の墓地際に並んでいます。

荒母鬼神 櫛型で高さ40cmの小さな石塔で上部に日天・月天があり正面に「荒母鬼神」と刻まれています。

かつて真土の三谷にアラハバキと呼ばれる社があり、のちに取り壊されて社前にあった石碑が真土の東光



荒母鬼神(宝暦4年)

妙楽寺の石仏(2) (地図番号③)

寺に預けられましたが、廃寺となり当寺に移った経緯があります。この神は主祭神としてではなく門客神として祀られ、客人神ともいい複雑で謎めいた神です。平塚ではこれ一基の珍しい石仏で宝暦4年(1754)の造立です。

狛犬 半僧坊前に奉納された一対の小振りな狛犬があります。狛犬は大陸由来で本来は守護獣らしく力強く獰猛な姿なのですが、最近では可愛らしさを強調する愛玩動物的狛犬に変容しています。この狛犬も親獅子の周りに数匹の可愛い子獅子が戯れて微笑ましい姿をしています。造立年代は不詳ですが見映えのある狛犬です。



狛犬(年代不詳)

十一面観音 舟型光背に深浮彫され、両手で蓮華の茎を持った坐像の十一面観音です。お顔や頭頂の十一面は残念なことに剥離や風化で明瞭ではなくなっています。十一面観音の功德は諸病をのがれ、財宝を得、長生きをするなどと説かれています。独尊としての十一面観音は市域で4基とさほど多くは見かけませんが、六観音のひとつとして見られます。石仏ではどれも十一面がはっきりしない場合が多く、この十一面観音も同様です。



十一面観音(年代不詳)

廻国塔 総高170cmで重量感のある立派な笠付角柱の塔です。正面に「奉納大乘妙典六十六部日本廻国」と書かれています。江戸中期以降盛んになり全国66ヶ所の霊場を巡礼し納経したことを刻んでいます。

市内に廻国塔は26基あり、この塔は「願主孫八」が廻国を成就した記念として文化7年(1810)に造立したものです。「萬人講…世話人當村中」とあり、多くの人々が造立に関わっていることが分かります。



廻国塔(文化7年)

常勝寺の石仏 (地図番号⑨)

常勝寺は、高野山真言宗で、本尊は地藏菩薩です。境内には、宝篋印塔、供養塔及び地藏菩薩が並んで建っています。

宝篋印塔 享保20年(1735)造立の宝篋印塔は最上部の相輪が修復されています。笠は下二段上五段で四隅には隅飾突起が花弁のように開いています。塔身四面には月輪内に金剛界四仏の梵字が刻まれ、基礎部分に「惣連五千百余人」とあり、村人たちの力を得て建立されています。

基壇には「法界衆生 平等利益」(生きるもの全てに平等にご利益が行き渡りますように)との願いが込められています。

供養塔 寛厳上人の二百年御遠忌を記念し平成22年(2010)供養塔が造立されました。正面には光明真言の梵字が円形に刻まれています。寛厳上人は文化8年(1811)相模川の大洪水の際、耕地の保全、住民救済を念じて入定したと伝えられています。墓地にある古い供養塔は風化が進んでいますが、光明真言や願文の「乃至法界 平等利益」、「過去寄現世未来茂夢之跡・・・」の句などが刻まれているようです。



左より地藏(享保12年)、供養塔(平成22年)、宝篋印塔(享保20年)

田村十字路の大山道標 (地図番号⑩)

田村通り大山道に建つ大山道標で、宝暦9年(1759)の建立です。正面には大きく「右 大山みち」とあり、右面には「左 不じさ王 江のしま 加満くら ミち」、裏面には「右 大いそ道」とあります。田村通りは、大山参りの帰り道として利用され、藤沢宿を経て江の島や鎌倉に向かいました。

脇にあるのは元禄3年(1690)建立の記念碑です。江戸の町人6人が、参詣者のために大山道を整備したことを伝えています。



大山道標(宝暦9年)

天獏宮の単体道祖神 (地図番号⑪)

天獏宮は八坂神社の末社とされ、上町で祀っています。

天獏宮には3基の単体道祖神があります。境内の小屋の中に祀られている2基は上町植竹で祀る道祖神です。1基は宝暦13年(1763)建立、もう1基は造立年不詳です。造立年不詳のものは、全高24cmで市内の単体・双体道祖神では最小です。

庚申塔の前にあるのは上町で祀る道祖神で、鹿見堂橋路傍や常安寺無縁塔内のものと同形です。



単体道祖神(宝暦13年)

八坂神社の石仏 (地図番号⑬)

田村の鎮守で、祭神は「素盛鳴命」です。古くは「祇園社」「牛頭天王宮」ともいい、神仏分離令により「八坂神社」と称号が変わりました。境内には昭和51年(1976)平塚市指定重要文化財になっている田村ばやしの碑も建立されています。

道標 境内奥の一角に、正面に力強い文字で「左 大山道」と刻まれた寛政5年(1793)造立の道標が建っています。

この塔は上部に不動明王を載せ、旧田村十字路を北上し、大山道が厚木道より左折する地点に建っていたと考えられています。

江戸や関東各地からの人々は、信仰と遊山を兼ねて大山参りを済ませたのち、「片参りはいけない」といわれ田村の渡しを利用して江の島に向かいました。

手水石 参道右側に手水鉢がおかれています。正面中央には丸に木瓜の窠文、右側には市内でも珍しい「盥漱盤」の文字、左側には享保3年(1718)の銘があります。



大山道標(寛政5年)



手水石(享保3年)

左面には「寄進 信州伊那郡 石屋清水平四郎」とあり信州の石工が関わっていました。また、右面にはかつての牛頭天王宮に奉じる「牛頭天王御宝尊」とあり、江戸時代の貴重な手水鉢です。

庚申塔 道標横に田村では一番古い庚申塔があり、庚申年である寛政12年(1800)に造立されました。

正面には青面金剛像が刻んであります。一面六臂で顔の表情は摩耗していてわかりません。持ち物は上二手に宝輪と三叉鉾、中央二手は剣とショケラ、下二手は弓矢を持っています。

この塔は昭和40年頃までは田村十字路の十王堂のところにありました。



庚申塔(寛政12年)

天神社の五十六川地藏 (地図番号⑬)

八坂神社から北へ200mほど行くと天神社があり、その傍らのお堂に合掌をしている優しい顔のお地藏さまが祀られています。

お地藏さまは二代目で、相模川で亡くなられた人達のために昭和53年(1978)に建立されました。以前は横宿念仏講中でお念仏があげられていました。

五十六川とは相模川の支流が56あったからといわれています。



五十六川地藏(昭和53年)